≪資料紹介≫ 森政三コレクション所蔵 内間御殿古写真

上江洲安亨[1]

Ⅰ．はじめに

森政三コレクション所蔵の図面・古写真等の紹介を過年度より継続して行っているが、今回は、西原間切にあった内間御殿を撮影した写真について紹介したい。

Ⅱ.内間御殿の古写真

内間御殿の敷地は、周知の通り第二尚氏の祖である尚円王（金丸：1415～1476）の即位前の旧宅であった。近世琉球期になると羽地朝秀の献策で、東江御殿が整備されたのを皮切りに、首里王府は継続して内間御殿の施設を拡充させていった。過年度でも言及しているが、森政三は 1936 年（昭和 11）に首里城守礼門の修理に携わるために来沖していた。内間御殿の写真も同時期に撮影されたものと思われる。

内間御殿関連の古写真は、4 枚残されており、鉛筆書きで「内間御殿　内部ニ石碑アリ」と記された封筒に入っていた。「石碑」とは「先王旧宅碑記」のことだと思われる。

写真 1 は東江御殿と思われる。当初、康熙 5 年（1666）に茅葺で神殿が建てられたが、康熙 28 年（1689）に瓦葺に改修された。写真 1 は、この瓦葺に改修され、その後にも王府が修理を重ねていた建物が撮影されたものと思われる。

写真 2 は乾隆 3 年（1738）に建立された先王旧宅碑の覆堂、写真 3 は東江御殿の本門、写真 4 は脇門の画像である。

内間御殿には、雍正 13 年（1735）に賊が侵入し、尚円王の「宝枕」が盗難される事件が起きた。尚敬王は自ら探索を行い水田の中から「宝枕」は発見されたが、この事件を契機に内間御殿の整備が進み、御殿の周囲を竹垣から石牆に変更し、本門と小門を設けた。これが写真 3・写真 4 にあたる。乾隆 3 年（1738）に改修の経緯を記した先述の「先王旧宅碑記」を建立した。この碑文の覆堂が写真 2 となる[2]。

なお、この内間御殿の画像は史跡である内間御殿の整備計画においても重要な根拠資料として活用されている（註 2 に同じ）。画像に関する考察も行っているので参照してほしい。本稿では、内間御殿関連古写真の公開を目的とするが、西原町の取り組みのよ

---

[1] 一般財団法人　沖縄美ら島財団　首里城公園管理センター　首里城事業課　副参事（博士（芸術学））

[2]『西原町 内間御殿 整備基本計画（案）（令和２年度改訂版』（沖縄県西原町教育委員会　2021 年 3 月 22-news-1.pdf (town.nishihara.okinawa.jp)13～14 頁・15～19 頁。

うに琉球建築の調査研究に資する基礎データとして活用してもらえれば幸いに思う。

図版

写真１　東江御殿の神殿

写真２　先王旧宅碑覆堂

写真３　東江御殿本門

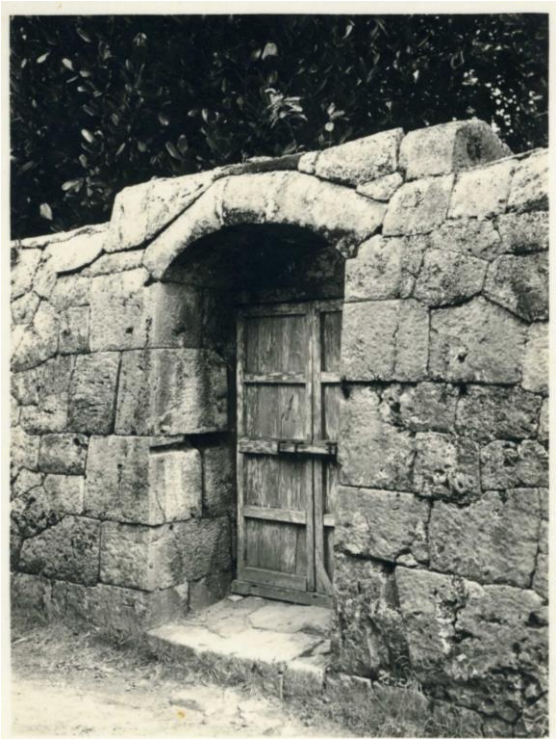

写真４　脇門